

ひと う じゆうじやく そ し けんきよう ばんぶつそうもく う
 人の生まるるや柔弱、其の死するや堅強なり。万物草木の生まる
 るや柔脆、其の死するや枯槁なり。故に堅強なる者は死の徒にし
 て、柔弱なるものは生の徒なり。是を以て兵は強ければ則ち勝た
 ず、木は強ければ則ち折る。強大なるは下に処り、柔弱なるは上
 に処る。

【大体の意味内容】人が生まれるときは柔らかで嫺やかなありさまだが、死んでしまった
 後の体は堅く強ばってしまう。これは万物に通じることでもある。草や樹木も柔らかく脆
 いものとして芽を出し、枯れ干からび、カラカラとなって朽ち果て、死ぬ。だから、堅く
 強ばったものは「死徒」つまり死のなかまである。柔らかで嫺やかなものは「生徒」すな
 わち生のなかまである。それゆえ、たとえば兵力というものは強ければ強いほど木っ端み
 じんに粉碎されやすく、最終的には勝てないものだ。木も頑丈なものほど、大風にさら
 されたときには折れて倒れてしまう。物事はすべて、強大なものほどレベルが低く、柔弱
 なものほどレベルが高い。



「生徒」の反対は「先生」ではなく、「教師」でもなく、「死徒」だったんだ！

ここで初めて知りました。確かにこの方が合理的で筋の通った二項対立です。私たち大人は、自分は「生徒」の反対だと考えたらとんでもない阿呆なわけです。これは肝に銘ずべき箴言

です。可能な限りいつまでも「生徒」であり続けた方がよいわけですね。

そのためには身体も心も、頭も柔らかくでなければなりません。年齢を重ねれば誰も老化していきませんが、そのこと自体は悪いことでもなんでもなく、むしろ熟練した素晴らしい「生徒」として輝けるべきでしょう。

好ましくないのは「死徒」化してゆくと。身体や心や頭が堅く強くなってゆくと、いずれ木っ端みじんこ砕けたりの折れたりのことになりまう。これは年齢の少い高うら関係なうらことですね。

「大木は倒れてもタンポポは斃れない」

何かで読んだ名言です。しなやかに風を受け流すたんぽぽは、一時倒れてもやがて起き上がって種をつけ風に乘せて飛ばします。自分自身は踏みこじられても立ちあがられても、根は残るから復活します。そうやって何度でも再生して滅びないのです。

「費の河原の子どもたち」のうらうら生きているうら。そんな心得とうらうら覚悟が必要と思ひました。「費の河原」は、幼くして死んでしまった子どもたちが成仏をせめてもらおうと集められたうらうら。そこで石を積んで父母を供養する塔を作らねますが、あとまううらうら完成、うらうらうらで鬼が来て破壊され、永久にやり直しをさせられるうらうら俗説です。

わたしたちも、多少歳月を重ねてくると、自分が何か築き上げたうらうら思い込みがたちですが、実はそう思い込むことが「死徒」化を進行させてしまふのだと思ひます。鬼がいなかったら、自分で鬼を呼び寄せてでも、「自分が築き上げたもの」を破壊せよと、何度でもせよと直さなければ大事なのでしょ。